

教科	科目	単位数	学年	集団
商業	ソフトウェア活用	2	3	ビジネス探究科(選択)

使用教科書	副教材等
ソフトウェア活用(東京法令出版)	全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験パスポート1級 ビジネス情報編(とうほう)

科目の目標
<p>商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動におけるソフトウェアの活用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。</p> <p>(2) 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の観点とその趣旨	
①知識・技能	実務と関連付けて、ビジネスのさまざまな場面で役に立つソフトウェアの効果的な活用に関する知識と技術を身に付けている。
②思考・判断・表現	ソフトウェアの活用をはじめとしたさまざまな知識、技術などを活用して、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見しようとしている。また、ソフトウェアの活用が企業活動に及ぼす影響を踏まえ、ソフトウェアに関する技術などによってこれらの課題を解決するための最適な解を導き出し、よりよく解決することができる。
③主体的に学習に取り組む態度	企業活動を改善する力の向上を目指して自らソフトウェアの活用について学ぶ態度を身に付けている。また、組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と積極的に関わりながら、企業活動におけるソフトウェアの活用に関する責任をもって取り組む態度を身に付けようとしている。
評価方法	
①知識・技能…定期テスト、小テスト、実技テスト ②思考・判断・表現…定期テスト、課題作品等提出物の取組状況 ③主体的に学習に取り組む態度…授業・実習への取組状況・提出物の提出状況	

学習計画						
月	単元名	使用教科書項目	単元や題材などの内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
4	序章「企業活動におけるソフトウェア活用」		・本教科書の事例の舞台となる「レストランegg」の概要を確認する。また、企業はどのような活動をしているのか及びその活動を支えるソフトウェアにはどのようなものがあるのかを確認する。			
	第1章「表計算ソフトウェアの活用」	「情報の集計」 ①グループ集計 ②クロス集計	・データを使用目的にあわせてグループごとに集計したり、項目ごとに集計したりするための方法についての知識と技術を身に付けている。	○		
		「情報の分析」 ①Zグラフ ②パレート図とABC分析 ③ファンチャート	・データを集計した結果を加工して、傾向をつかむための分析や、効率よく商品管理をするための分析をする方法についての知識と技術を身に付けている。	○		
5		「シミュレーション」 ①連続的に変化するデータの予測 ②表を使った確定的な予測 ③乱数を使った確率的な予測 ④標本を用いた母集団の傾向の推測	・モデルをつくり、条件を変えたり乱数を使用したりして、コンピュータで模擬的に試行(シミュレーション)して予測をするための方法についての知識と技術を身に付けている。		○	
		中間テスト		○	○	○
		「オペレーションズリサーチ」 ①在庫管理 ②回帰分析 ③線形計画法 ④待ち行列 ⑤日程管理 ⑥ゲーム理論	・集計、分析したデータを活用して経営に関する課題を発見し、解決策を見つける手法についての知識と技術を身に付けている。		○	
6	第2章「データベースソフトウェアの活用」	「手続きの自動化」 ①マクロの基礎	・効率のよい処理をおこなうため、繰り返しで実行する操作などを自動化するマクロを作成する方法について理解している。	○		
		「データベースの重要性」 ①データベースの概要と特徴 ②データの整合性を保つ技術	・ビジネス活動において、情報の収集・整理や管理に利用されているデータベースの概要や重要性について理解している。 ・データベースのデータを守るためのしくみについて理解している。		○	
		「リレーショナルデータベースの概要と設計」 ①リレーショナルデータベースの概要 ②リレーショナルデータベースの設計	・データベースを設計するために、データの正規化とE-Rモデルについて理解している。		○	
		「データベースの作成と操作」 ①データベースの構成と要素 ②データベースの作成 ③データベースの操作 ④レポートの作成 ⑤SQL	・商品管理についてのデータベースを作成するために必要なデータベースソフトウェアの操作方法についての知識と技術を身に付けている。また、学習内容を活用して報告書を作成することができる。	○		

7	期末テスト					
		「手続きの自動化」	・一連の処理をマクロ機能によって自動化する方法と、メニューを作成する方法についての知識と技術を身に付けている。	○	○	○
9	第3章「情報システムの開発」	「表計算ソフトウェアによる情報システムの開発」 ①表計算ソフトウェアのプログラミング ②表計算ソフトウェアのユーザフォーム ③表計算ソフトウェアによる情報システムの開発	・表計算ソフトウェアのプログラミング機能を利用してシステム開発するための方法についての知識と技術を身に付けている。	○		
		「データベースソフトウェアによる情報システムの開発」 ①データベースソフトウェアを利用したシステム開発の準備 ②データベースソフトウェアを利用したシステム開発	・企業活動において、給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ソフトウェアについての知識と技術を身に付けている。		○	
10	中間テスト			○	○	○
	第4章「業務処理用ソフトウェアの活用」	「グループウェアの活用」 ①グループウェア ②グループウェアの導入 ③グループウェアの活用	・企業活動において、組織内の情報共有やスケジュール管理に利用されるグループウェアについて知識と技術を身に付けている。		○	
11		「給与計算ソフトウェアの活用」 ①給与計算ソフトウェア ②給与計算ソフトウェアの画面構成 ③給与計算ソフトウェアの導入と活用	・企業活動において、給与や所得税・健康保険料などの計算に利用される給与計算ソフトウェアについて知識と技術を身に付けている。	○		
		「仕入・販売管理ソフトウェアの活用」 ①仕入・販売管理ソフトウェア ②仕入・販売管理ソフトウェアの画面構成 ③仕入・販売管理ソフトウェアの導入と活用	・仕入・販売・在庫管理などに利用される仕入・販売管理ソフトウェアについて知識と技術を身に付けている。	○		
12	期末テスト			○	○	○
	第5章「情報システムの基礎」	「情報通信ネットワークの導入と運用」 ①通信手段の変化 ②ネットワークの導入 ③インターネットの運用 ④クラウドコンピューティング ⑤安定したシステムの構築	・情報通信機器の特徴や、インターネットへの具体的な接続方法について学習する。	○		
1						
2		「情報資産の保護」 ①情報資産の適切な管理 ②情報セキュリティの3要素 ③情報資産のセキュリティ対策 ④情報セキュリティの脅威と対策	・情報資産を保護する重要性や方法について理解している。	○		
		学年末テスト			○	○
3						